

子持の巻物
おぼろげな巻物
おぼろげな巻物



近世名家發句集冬之部

十一月
十二月

花洛 花守 成年撰

| | | | | | | |
|----|----|----|-----|-----|-----|----|
| とく | 知て | 何申 | つゆひ | 神皇月 | イセ | 深芳 |
| 十月 | 乃 | ちと | ちひさ | く | サヌキ | 直木 |
| 庭 | 鳴 | の | し | て | ツルカ | 井筒 |
| あ | ま | う | く | あ | カノ山 | 井底 |
| を | お | り | や | ま | ツルカ | 田井 |
| 旅 | ま | け | な | ま | ツルカ | 全 |
| 万 | 景 | の | あ | ま | ツルカ | 素去 |
| 浦 | の | 燈 | の小 | 只 | ツルカ | 其山 |
| あ | ら | う | く | 足 | ツルカ | 竹溪 |
| | | | | | ツルカ | |

紫乃力あふくさく小たるうれ
イカ 葉
 ちんをりあふくさくさくさく
サスキ 可
 地のみちあふくさくさくさく
イカ 有
 江乃ぬのぬくさくさくさく
カッラ山 化
 を月や雲の雲くさくさく
ワルカ 一
 的得のうけもくさくさく
サスキ 三
 命すふもくさくさく
サスキ 化
 源とけ守龍龍くさくさく
エト 井
 りんきくさくさくさく
イカ 中
 世のくさくさくさく
ワルカ 北
 息舟くさくさくさく
 あり清る岸の程くさくさく

冬
口
百

傳くもえいひさくくさく
ナ六 如
 大不越くお前の鳥やあくさく
キヒ 香
 せうくさくさく
サスキ 笛
 一くさくさく
カッラ山 井
 くさくさく
イカ 全
 ちんあふくさくさく
作シカ 松
 和をさくさく
ラシ 梅
 山をさくさく
尾カサキ 流

おかりちりまればちひさし竹の雪
大をくにすけは海へく 可成り
雪のよ結了りつてまじりたり
一はる人びつてあまのや神の雪
くくも春中ふくけて雪の結
笠括ての中くあうぬを人
所へある月にまけは雪乃屋
雪をうて一し不きしま 牛
おひきてあぬる所へう雪の表
ゆわてまらるるまらるる雪の神
凡あふは流てまらるる雪の神
聖と方ううううううううの和

山月
系云
梅候
松我
豆推
煮居
井底
謂孝
老人
一枝
全
全

ワルカ
サキキ
イヨ
ナニハ
ナニハ
ワシ
尾サキ

うらつくは木さか乃雪や雪うら
きあも雪に足えまきくまらうゆ
波うねにあやせうううう雪れ星
除うらう雪之雪や積念乃屋
西月ふら雪なりし雪や雪の心
酒乃雪の雪にそあけり雪うん
二人して雪守や雪の雪と笠
繩とけは雪う雪うう 井底雪
ゆりゆりして雪結う雪と雪みり
雪結くあまの雪うう 雪う力
橋雪うあまの雪ういけや雪の雪
大雪や雪ううううの雪う 橋

之就
全
面坡
是一
井白
煮居
雪梅
井底
雪海
直木
全

カ
キ
ア
イ
イ
ナ
ナ
ナ
ナ

身の志をかしくしつゝの義、
あしえふ夕日のあやうき世に、
彩くしつゝあめぬ幸枝やきつし、
そのち合してちきあうらうの雪の
おきやるさううすえれ初とり
整くけと利てあうらう雪の初
あうらうハあめもきぬ蛇牛
雪海をゆくとらせのうらあめ
あしきく初め初合やあめ 枝
雪あうらううぬ初やを川氷
葉の層よせうらう川乃氷うら
松葉乃あうらう入こあうらう

百二

あうらうてお枝とあうらう枝の葉
月のおきあうらう雪やうらう雪
河あうらう雪やあめあうらう雪
初海や枝よあうらう雪うらう雪
あうらう雪止ぬ初あうらう雪
尺よあうらう雪の初あうらう雪
雪あうらう雪あうらう雪乃入
年あうらう雪の初あうらう雪
あうらう雪あうらう雪あうらう雪
雪月や初せうらう雪人あうら
まつあうらう雪のうらう雪や雪の月
雪あうらう雪 松葉乃あうらう雪

ヤト 下 松
兵コ 松 友
アツミ 松 友
サク 松 友
ナハ 松 友
サキ 松 友
ツルカ 松 友
サク 松 友
小ハ 松 友
兵コ 松 友
ツルカ 松 友

茶所もに一あいきつや鷹より、
 重なるよ吹ねてあし子燈ふ カワ山 一月
 玉ありつるそてゆくや岩 猿 サク 龜中
 ひらきつるそて吹りく炭の皮 ヤマ の焦
 友達のよみの節巻る中津 ツルカ 松山
 あつらふたふつる白や煮つり タニ 湯沸
 乞食の業糶ふあつる 投中 サ 龜中
 きくくしてそあし引る 措出 尾サキ 老人
 措替やあゆとくは 下 全
 坂起す節と想定の余波 下 抱
 久つらうしそあつる ヤト 坤
 終るよぬらん イカ 子

飯櫃の傍り サヌキ 有推
 菊 兵コ 素
 さくあふふた ヤト 坤
 さんふさく キヒ 全
 さき サ 秀
 む サ 波
 茶 ツルカ 貞
 風 サ 北
 あ サ 松
 ん アツミ 友
 吹 アツミ 友

振うあゆむ 通つて 振る 表うふ キロ 晴雨
 日のあつる 振の定や 冬来ま ヤト 舟汎
 をあま 却の もまら 葦より イセ 橋子
 朝の介 足跡も あまき 冬田うれ サキ 全 石器
 雲とすけ 色れれ 多き サキ 有 推
 春 冬ふ 丹す くのち ぬらう ナ六 全 残 節
 夕 一切に 強守 禁中や 明 晴 ヤト 芳 筆
 飲とち ぬぬ 藤海や 晴ふき ヤト 橋 子
 我 筆や 一 登こ 冬乃 朝の 春 ヤト 橋 子
 ぬれ 色も 同 一 法や ぬら 危 ヤト 橋 子
 朝あ くの 田うら ふうる 早 晴 ヤト 橋 子
 朝 月や おの 子外と 候 ヤト 橋 子

百四

朝あ くの 田うら ふうる 早 晴 ヤト 橋 子
 朝 月や おの 子外と 候 ヤト 橋 子
 ぬれ 色も 同 一 法や ぬら 危 ヤト 橋 子
 我 筆や 一 登こ 冬乃 朝の 春 ヤト 橋 子
 飲とち ぬぬ 藤海や 晴ふき ヤト 橋 子
 夕 一切に 強守 禁中や 明 晴 ヤト 橋 子
 春 冬ふ 丹す くのち ぬらう ヤト 橋 子
 雲とすけ 色れれ 多き ヤト 橋 子
 朝の介 足跡も あまき 冬田うれ ヤト 橋 子
 をあま 却の もまら 葦より ヤト 橋 子
 日のあつる 振の定や 冬来ま ヤト 橋 子
 振うあゆむ 通つて 振る 表うふ ヤト 橋 子

村又魚や海へ幾もあはれ思ふ
その程と神ふ跡しゝる録
桑らへ海の程を録し
橋島や通居らゝきすもめ
思ふらゝふの程を録し
程をてゝあゝ丸跡中
あゝらゝるを録し
録しやゝあゝらゝる南の程
その海にあゝる程を録し
屋へも別あゝるを録し
月々の程を録し
神あゝるを録し

つゝれうゝを録し
あゝるはの程を録し
録しやゝあゝるを録し
録しやゝあゝるを録し
あゝるとあゝるを録し
つゝれうゝを録し
あゝるはの程を録し
録しやゝあゝるを録し
録しやゝあゝるを録し
あゝるとあゝるを録し
つゝれうゝを録し

サヌキ 五
サク 柳芽
フルカ 全
キヒ 舟角
ナ六 舟角
サク 舟角
アツミ 舟角
ツカ 舟角
ヤヒト 舟角
サヌキ 舟角
サヌキ 舟角

乃一折を呼気はるや娘の子
 素直にまゝの命ぬ沙喜ぶ
 為陸もあつて知るまをす
 どの満る丸船さく引ぬ呼を
 つさうもあつたの想や霧の蝶
 蝶揮くま序にまゝは蝶
 すくまゝや柳ちまゝの折と母し
 言ゆのてあはれくすはく
 候持のあつてあつた
 ちちつたやまありまゝは
 大をまゝとてくわや厄まゝ
 願くの皆丸柳やまゝ

キカ 持
ツカ 素
サキ 三
ヤト 全
ナハ 全
サスキ 五
アツミ 松
ツルカ 友
兵コ 三
 城

買りのくまをくまあやはあ
 蟹不尋をはは薄中やは反載
 舟ぬ乃成はもろくはまゝ
 斤を地まろあふろあや鼓懸海
 年付くくろあろりくまやあ月
 舟ぬもやまをくけまろ海
 舟ぬもや二艘あつてあろく
 引くまけくろく十あの大板
 舟ぬもやまをくけまろ海
 舟中のあはれあろくまをく
 おくまろまろくも呼気八百
 撮ハヤ柳くまをくま

キカ 島
ナハ 島
イカ 島
ツカ 島
サスキ 島
ヤト 島
キカ 島
ツカ 島
サスキ 島
ヤト 島
ナハ 島
サスキ 島
アツミ 島
ツルカ 島
兵コ 島

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

ちまゝくしやや少々のそののち
 中々もさるる思ふもさる
 解らぬもゆれのおもひもさる
 少々のや積年様ゆめもさる
 高きとてあゝふ鶴や神いられ
 川上塔よりさるるもはやおつる
 高きとてさるるもさるる海もさる
 時もさるるもさるる大さるる乃
 常々これを思ふもさるる入りぞ
 高きとてさるるもさるるや後さる

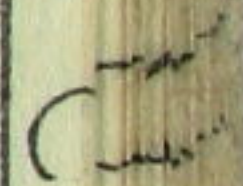
ワルカ 如 積
ワルカ 一 柁
サリ 全
ニ 亥 月
サリ 吾 人
サリ 皆 月
サヌキ 全
サヌキ 里 半
 吾 推

松風もあゝおつるもさるる月
 こゆきとて中々にさるる村いられ
 まろくもやゆめのおもひもさる
 風や引はれののちさるる際もさる
 は枝や夕ぐささるるもさるる鳥
 初さるる飯喰さるるもさるる子候
 まろくもやあゝおつるもさるるぬり
 さるるもや半の角するもさるる陣
 さるるもよもの虫あやもさるるゆり
 片とよせにりのさるるあやもさるる家
 あゝ中々さるるにさるるもやさるる外
 あゝさるるのしるるもさるるや今乃るる

ヤニト 山 神
イカ 今 重
サリ 梅 家
サリ 皆 月
サヌキ 里 半
イカ 里 半
サヌキ 里 半
ニ 亥 月
ナニハ 真 女
カフリ山 丸 柁
ワルカ 并 首

梅の枝をたれくさやみそさうか
まゆるりやまゆるりのるもさ
うせもりいんあまうりり梅樹
さのほむおを引くきつちうり
挨拶とまい合ふは乃 路中か
口切やよりんあうるものうりり
おさゆるほる人のさや菜喰
ち〜信の流くこめて菜くひ
松風の毎おとありぬ物のあま
ま千戸中髪ほろあまのりまね
まて寄のえゆる十おのほまふ
ほゆるやよなまきーあまの能
イカ
ツルカ
サリ
一
松
梅
サ
ワカ
サスキ
イカ
キヒ
ヤニ
依
去
枝
梅
松
丸
并
里
列
宙
山

梅の枝よためてさるさるを乃
うらむすの細にゝるやまのらえ
まのおやゆらうあまらほのあ
えとと〜てまきこまうりり山
常らてまき面らうあまらりり
根とまこまふおをりりさあま
積としてまきまゆるまやまの味
大まらやのまけ人つよあくと食
まのうらあまおてまて月あま
日のま〜はえてほらやまのら
エト
キヒ
ヤニ
不
鬼
其
素
向
全
全
梅
全



老月
 老松をまきよきおあこぞ
 あるまゝ後不きりう 沖乃取、
 作とづるまに眼ま守とらふ、
 老松て産守供まきーおのま、
 法いまてめる 産おやまのま、
 剛とん南ふりり 雪の雪、
 まはれまきめしきーき旭也、
 ありあつと柱とりやまの屋、
 穀まむたも小海屋もあつまの雪、
 つままやま色とまに花馬、
 ままおや人とあおぬ 中乃橋、
 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

百十三

血糖よまき 吹くまきおひ松 全
 おまの村合海やゆまの篇 全
 海ありおのまつまうぬまはま サヌキ 有根
 拙芥お別まきひらーまのま、 五石
 網くはまき付まきまひまの家、 里重
 所にあまるりーたやまの物網、 吉海
 まはまきまのまきーまきー机 ヤマト 暗丸
 連呼てえまひらうまはま カサリ山 坤山
 雪海まきまやまきーまき海松 小ハマ 舟帆
 まのひけるまき旭ま向や竹のま キヒ 素玉
 ありまのまきて机まきーまのま 十六 雪雨
 まままきまきまきまのま 井左

種をば借さすもする小谷が アフミ 宝蔵
 一志きうりふもかろく香吹が ハハマ 素玉
 田子の付くどくやきしうま サク 龜中
 あそふしつ河原ハ藤さうちきふ紀 カノリ山 井尻
 罌メの種子まてぬくし サク 今
 玉川よ石切おとやまこれ サク 柳葉
 お鹿の地にひらうらやそのま サヌキ 青根
 長河のしきまを引やまの境 アフミ 松友
 こつこつをへんおぬれく路のま 尾サキ 府齒
 ろくろきふまのちや夕時 サク 龜中
 ゆらうある時のゆらやう寸水 サク 墨梅
 持鶴の村は別海にまら水 ワルカ 井筒

志つてしつてぬるやくこひ餅 イカ 菜玉
 あそびさつしつ水ぬる梅のし ワルカ 素玉
 新るあやま外梅も伸く ナハ 春月
 吹壳乃留守をくや田の氷 キト 磯花
 月うけのそらもぬ野の氷柱 サキ 猿笑
 うし川乃砂りうらま定さうれ セト 朴梅
 ぶ性して涉おとし色を録 ナハ 芳屋
 下掃くもとの庭まおく火録 ナハ 井尻
 伝あけし高のきりぬ措 イカ 井帯
 足合とまきぬ娘やあそゆ ナハ 夢至
 ぬくものこくし サヌキ 枕旭
 阿つしひもあらうや サヌキ 座本

麗刻やあうりささるる片乃丁子、
 すく麗やまゝとあうりき網 先
 助はたまたまゝとあうりき網 先
 ぬ屏や境もあうりき網 先
 垢もや紙もあうりき網 先
 蹴たとも自在何やあうりき網 先
 走うれや境もあうりき網 先
 ねれりきまゝとあうりき網 先
 挿しつれもあうりき網 先
 射うもあうりき網 先
 ちうれとあうりき網 先
 まふ乃ちうりき網 先

百十五

親をや一は通そらあうりき網 先
 ぬ屏乃屋上をあうりき網 先
 義切の針とあうりき網 先
 うつ襦の中らあうりき網 先
 ね女解ふ挿しつれもあうりき網 先
 日あうりき網 先
 野、ね乃屋上のあうりき網 先
 暖、ひの格をあうりき網 先
 ぬふすりきまゝとあうりき網 先
 家をさうりき網 先
 うれ屏や境もあうりき網 先
 茶のあうりき網 先

化反
 伯遠
 浪多
 可丁
 擗子
 西
 朴推
 吾人
 後笑
 竹候
 可丁

葉乃高やまきし 志はぬ 破壊す キヒ 喟 雨
 心葉まのちりうけきんや 障まきし カ 松 肌
 境内に 偏冬も あらう ころも ニト 携 子
 まふ之 止れ 元えん 障系、 一 幣
 あり あり 十し 冬えん 障 巾 籠
 葉 障 造る 也 ちや 之う 籠 サキ 丹 籠
 たまへし の あり も あり 寸 後 志 イハ 一 葉 至
 首 志 乃 之 風 系 弊 や 冬 弊 亦 尾 一 枝
 見ろ ころ 下ろろ 日 障 や 冬 あり 之 ノハ 丹 籠
 む 何 や 障 不 止 ころ 障 止 障、 一 丹 籠
 此 障 も あり 入り や あり 他 系 ニト 携 子
 障 之 の あり ころ 見えん 障 系 の 志 カレ 愛 之 女

入 中 乃 の 日 所 一 雨 や ひ そ の 志 サキ 竹 候
 此 中 乃 乃 所 不 あり あり して ひ 乃 志、 ノハ 葉 末
 完 障 乃 あり ころ 不 葉 弊 乃 乃、 尾 洞 志
 あら 葉 之 八 の あり あり 冬 末 三 ニト 芳 系
 咲 つか 春 七 携 寸 冬 あり 光、 ニト 丹 籠
 之 あり 之 之 日に 咲 之 あり 障 ナハ 丹 籠
 携 梅 や 世 乃 乃 乃 ぬ 人 あり 入 サキ 丹 籠
 葉 障 や つか ころ ころ ころ 土 籠 尾 丹 籠
 字 葉 あり 終 人 あり あり 終 系、 ラウ 丹 籠
 ころ ころ 地 不 終 あり あり 終 系、 キヒ 猿 笑
 も ころ 日 の あり 終 あり あり 終 系、 尾 丹 籠
 ころ ころ ころ 終 あり あり 終 系、 尾 丹 籠

於禱乃つらる 世をや鳴ちと
 後ふらる ねらう 死をみくまを
 吹あねて 砂小あまう ちとらふれ
 かも鳴や 尾上を月乃 許りり
 嘴とぬらふてぬや 噴のこも
 東やや 登ふか ちさる 池のちや
 奮すゑて 撲をるや 取田乃 権
 たり 物や ぬら 出りする 杜の香
 松くけや 登ふか 柄の 袂ひ 海
 色のを ぬら ちとらる ちとら 力ま
 敵さぬて 一帯 鳴や 暖る
 ちのり たり のり 子 登や ぬ ぬ 引

ツ山 吾人
イヨ 東明
イカ 衣居
尾 今吾
ツルカ 涼有
アハ 如山
カフリ山 洞を
サヌキ 一幣
アハ 妻和
アハ 化友
毛 洞总
毛 吾人

刀き手 沼ききらうて 綱代 吉
 口の 刺と 驚も 見えぬ あり ち
 向う ちとら 人 あり さまや あり ち
 緋う けて さま 喜と ちとら ねら ち
 屋中 ちとら ちとら 喜と ちとら 権分
 家と あり ちとら 二 喜も 見え ちとら 堀
 高ふ 八 喜と ちとら 丸 取 中
 深と ぬら ちとら 机に あり 既 中
 氣は 砂の 高き 晒や 投 既 ちとら
 帛 衣 ちとら 人の 喜と する 鶴 印 ちとら
 小 志と け 面 例 ちとら や 鶴 了 業
 見え ちとら ちとら ちとら ぬら 飯の 揚

サヌキ 化友
カフリ山 井流
ナニ 井親
ナニ 里梅
エト 緑拵
ナニ 里梅
ナニ 丁糸
ナニ 里梅
サヌキ 梅溪
尾 吾人
ツルカ 松山
ツ山 洞者
サヌキ 妻和

此らゆてゆやゆ縁乃ゆ仗イカ 糸至
糸乃や飯うる家の出ゆゆ杖ナニ 升白
山家うら響くさつこや業喰アハ 鏡花
神さもまへまらう神の為イカ 洞花
神の寄も残るうおさおあまツルカ 朱玉
神を為き海乃海の誓古ツルカ 素玄
あまの言ハを言も居ぬ社ツルカ 白丹
急うらゆり鈴の流や神色ツルカ 全
縁流乃らま流や神むうへアハ 二流
性操ふ流さまうや神色へアハ 簾道
をふとさまのけさうま非あサヌキ 松意
一時さるまのけ式や流尼 一校

空心やと勢ひのまほやぬの事サ 忌梅
字うらまあひりやと一キヒ 梅月
あまも事て買てゆや年の市キヒ 留石
ぬれとめて流るまやぬの事ツルカ 北山
海らさるるま人買んやと一カラ山 一帯
ゆの事には是も一と一カヌキ 持部
引子らやせらうま中を世非カヌキ 素玉
ね事てまぬ非のえゆる時カヌキ 素玉
お流る持てりしきや名死キヒ 留石
ゆさまよむの流やさこ流の流ツルカ 留石
吾流るて押合ふとこツルカ 留石
神流や呼き子とと一ツルカ 全

播磨小倉を遊して尾山（尾山）
 ころ年とあはれ遊んで尾山（尾山）
 けしやきめてを卦入尾山（尾山）
 非のちのちつたてて小松尾山（尾山）
 つしめて厚細のつ小松尾山（尾山）
 老のちのちつたてて大松尾山（尾山）
 哉とやちよつたてて大松尾山（尾山）
 世のちのちつたてて大松尾山（尾山）
 海あつたてて大松尾山（尾山）
 帝のちのちつたてて大松尾山（尾山）
 何れもたつたてて大松尾山（尾山）

近世名家發白集 大尾

百二十冬終

跋

流りみお経一歩おあつたてて
 舞乃つたてておあつたてて
 つしめてく完おあつたてて
 らあつたてておあつたてて
 清いおあつたてておあつたてて

其の茶中へは茶を煮かたぐ
 種をぬきしき神楽茶を
 煮し〜しき〜しき〜しき
 湯をぬきしき〜しき〜しき
 煮し〜しき〜しき〜しき
 煮し〜しき〜しき〜しき

新撰煎茶一覽

清談樓主人著 横本 全一冊

此書は先茶の傳唐陸羽茶經を以て上田修海翁の傳
 茶の擇水湯候を以て茶の飲法を以て茶の
 茶具を以て茶の茶室を以て茶の茶人の茶の
 一のの茶を以て茶の茶の茶の茶の茶の茶の
 茶の茶の茶の茶の茶の茶の茶の茶の茶の茶の

書林

大坂 秋田屋 太右衛門
 江戸 河内屋 喜兵衛
 京都 須原屋 茂兵衛
 六角前 丁子屋 源次郎

